



平成 29 年 11 月 24 日

各 位

会 社 名 株式会社動力
(コード番号 1432 TOKYO PRO Market)
代表者名 代 表 取 締 役 鈴木竜宏
問合せ先 常務取締役管理本部長 藤本 進
T E L 0566-91-3880
U R L <http://www.doryoku.co.jp>

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 5 月 16 日に公表いたしました、平成 30 年 3 月期通期業績予想を最近の業績動向を踏まえ下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 通期業績予想の修正 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

(単位：百万円未満切捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	2,680	56	20	20	9.68 円
今回修正予想 (B)	1,900	10	10	10	5.04 円
増減額 (B - A)	△780	△46	△10	△10	—
増減率 (%)	△29.1	△82.1	△50.0	△50.0	—
(ご参考) 前期通期実績 (平成 29 年 3 月期)	2,613	△76	△68	△51	△25.00 円

2. 修正の理由

太陽光発電システム市場は各電力会社の買取単価の低下や、4月からの設備認定の方式が変更し煩雑になったことにより、想定を下回る市況低迷が続いております。売上高につきましては、架台商材は野立て架台 D-earth の販売が伸び、海外モジュールメーカーの傾斜屋根架台の販売は順調に伸びているものの、太陽光関連の環境商材と付随する工事が、産業用、住宅用の販売価格の競争が激しいことで、成約率の低下や工事のみの請負が増加し、1件あたりの販売高が少額となり、売上高が減少しました。新規商材についても、当事業年度より新たに販売の注力を行っておりますが、半期での売上高に大きく影響を与えることができなかった結果、予想を下回る見通しとなりました。

一方、利益面では、物販の薄利販売が少なくなる一方で、支給部材による工事請負が増し、当社での仕入れコスト低下につながっております。また、その工事を自家職で行うことで、原価の上昇を抑え売上総利益率は向上しました。しかしながら売上の減少に伴い営業利益につきましても予想を下回る見通しとなりました。

営業外費用といたしましては、予定していた一時的な開発費について支出を見送った結果、営業利益と経常利益は同水準となり、通期では黒字を見込んでおります。

以上